

下町薬師堂



下町薬師堂入口にある山門は、江戸時代の宝暦元年（1751）に、当村の齋藤吉右衛門によって寄進されたものである。当初、徳次郎城跡西側に開山した「真言宗成就院」の山門として建てられたが、寺院の廃寺に伴い、当地に移された。

山門の形式は2本の主柱に、切妻の屋根を載せた「棟門むなもん」と呼ばれる門で、

柱と屋根は徳次郎石が用いられている。

下町薬師堂は、江戸時代中期頃に建てられたお堂で、屋根の形状は入母屋風の二重屋根である。薬師堂内に彩色と彫刻を施した、高さ180cmほどの立派な厨子ずしが収められ、その中に薬師如来立像があった。厨子の内側には建造年代を示す「延享2年（1745）入仏」の墨書がある。

薬師堂境内を見渡すと、寛文4年（1664）建立の五智ごち如来にょらい石塔を始め、江戸時代建立の数多くの石仏、石塔、墓石類が建っている。

